

「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめに対して寄せられた御意見等について

【意見の募集について】

1. 募集期間
- 令和6年12月25日から令和7年1月24日まで
2. 内 容
- 「（次期）東京都スポーツ推進総合計画」中間まとめへの意見公募
3. 意見数
- 43件（主な意見等については以下のとおり）

【主な意見等】

1. 計画の内容等に関する御意見

意 見 等 （ 要 旨 ）		考 え 方
スポーツ実施状況について		
1	「海外諸都市のスポーツ実施状況」の数値について、実施率として定義されている頻度を備考として記載するなど、記載内容や方法を検討した方がよい。	○ 備考欄に、各国が実施率として定義している実施頻度を記載するなど、記載内容の見直しを行った。
マイナースポーツ等の普及について		
2	現在はマイナースポーツであるフラグフットボールを活用し、社内の従業員の運動習慣率を引き上げたり、競技自体を地域コミュニティで周知することで、練習や試合を盛り上げていきたい。東京都からオリンピックを目指す団体が出る可能性もあるため、こうした活動を企業単体ではなく、都と一緒にすることで、地域社会のスポーツ推進にもつながるのではないか。	○ 民間企業をはじめとする多様な主体の参画を促し、連携して取組を実施する。また、自らに合ったスポーツを楽しめるよう、身近でできる場の確保等を推進していく。 ○ 都はこれまでも、スポーツ及びレクリエーションの普及振興に資する施設の設置や改修に取り組んでいる。本計画には都民のウェルビーイングの向上に資するスポーツ施設の活用策等を記載している。
3	インラインホッケーの施設を東京にも建設してほしい。	
eスポーツ・デジタル技術の活用について		
4	eスポーツについては、仮想とはいえ身体を傷つけるものや戦争を想起させるものも含まれ、現在、オンラインゲームについても、課金問題や依存症などが社会問題視されている。このような中で、行政としてeスポーツの取扱いには慎重を期す必要があるのではないか。	○ 本計画では、障害者や高齢者の健康増進等に向け、eスポーツを活用していくこととしている。 ○ 課題や効用等について調査するなど、eスポーツの活用の在り方について検証を実施していく。
5	eスポーツの更なる推進をお願いしたい。	
6	区市町村に対するeスポーツイベント等への支援、遠隔ロボットを活用した障害者等へのスポーツイベント参画事業の継続をお願いしたい。	○ 都は、区市町村が実施するデジタル技術を活用したスポーツイベント等について支援を実施している。 ○ また、遠隔操作可能な分身ロボットを活用し、区市町村等が行うスポーツイベント等において、重度障害のある方等が会場にいる他の参加者と交流・スポーツ体験等ができる機会の提供を継続していく。
子育て世代・働き盛り世代に向けた取組について		
7	親子が一緒に参加可能なものに一定のニーズがあると推測し、親が子どもにつられて体を動かす機会を作ることは有益であるため、仕事と両立をしながら、スポーツに親子で参加する機会を作るべき。	○ 都は、従業員のスポーツ活動の促進に向けた取組等を実施している企業等を「スポーツ推進企業」として認定し、都民に広く周知しており、親子向けの体操教室など、企業の優れた取組を今後も広く発信することにより、引き続き、子育て世代や働き盛り世代を含め、都民がスポーツに取り組むきっかけを提供していく。
トップアスリートについて		
8	トップレベルのアスリートに社会貢献の視点を持ってもらい、人々（特に子供）へのスポーツの普及に貢献してもらえるような施策を取り入れてほしい。	○ 都は引き続き、国際大会に出場し活躍した方をはじめとする東京にゆかりのあるアスリートなどを広報・応援するとともに、アスリートが地域でのイベント等、様々な場面で活躍できる機会の創出に取り組んでいく。
スポーツを通じた相互理解の促進について		
9	組織、人材、財政の全てにおいてぜい弱なパラスポーツの普及・振興には、行政の関与が不可欠である。スポーツ推進総合計画案において、共生社会の実現は行政が最も尽力すべき分野である。	○ 都は、パラスポーツの更なる振興に向け、「障害の有無にかかわらず共にスポーツを楽しめる取組の推進」を本計画の重点政策テーマに位置付けるとともに、政策の柱2「スポーツでつながる」において、共生社会の実現の視点で施策を推進していく。
10	アスリートの競技力向上に関して、東京2020大会が終わった後も、国際大会に出場できるアスリート、都民が応援したくなる選手を継続的に輩出できるように仕組みづくりが重要である。	○ 東京から国際大会等で活躍する選手を発掘するため、様々な競技スポーツに出会える体験会を実施しており、今後も継続的な選手の輩出につなげていく。 ○ また、東京ゆかりの選手について広く都民に応援いただくため、引き続き都のホームページで選手情報を発信していく。
11	東京2020大会に向けて始まった複数の事業に横串を刺し、予算の使い方や事業内容についても、今の時代に合った、より効果的、効率的に再構築していく必要がある。	○ パラスポーツ関連事業の構築に際しては、社会情勢の変化や都民のニーズを把握した上で、横断的な視点で執行体制や事業の在り方を検討し、不断かつ弾力的に見直しを行っていく。
12	障害当事者自身が、身近な地域でいつでもスポーツができると感じられることが最も重要。そのために、地域の施設やパラスポーツ指導員などを活用し、障害当事者が一人で行ってスポーツを楽しめて、団体でも利用しやすい環境にすることが必要。	○ 障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しめるよう、都立特別支援学校の体育施設の開放やパラスポーツ等の体験教室の実施とともに、区市町村が行う取組に対し、パラスポーツ指導員の派遣等により引き続き支援を行っていく。 ○ また、スポーツ施設の利用促進に向け、設備面での工夫やスタッフの配慮等の好事例の発信、アドバイザー派遣などにより、環境整備を支援していく。
13	計画の実現に向けて、都内の関係団体と連携を密にして、具体的な取組としていただきたい。	○ 都は、パラスポーツの更なる振興に向け、スポーツ、福祉、医療分野の関係団体や企業など多様な主体と連携し、事業を展開していく。
14	障害のある都民のスポーツ実施率を向上させるには、場の充実や支える人材の確保が特に重要。	○ 場の充実に向けては、特別支援学校の体育施設の活用、区市町村が行うパラスポーツ事業への支援、福祉施設等における運動習慣定着に向けた支援に加え、デジタル技術を活用した障害者のスポーツ参加促進を引き続き進めていく。 ○ 人材確保に向けては、パラスポーツ指導員養成講習会、各種セミナーや研修会等の実施、ボランティアへの活動支援等を引き続き進めていく。

意 見 等 （要 旨）		考 え 方
15	障害のある子供とない子供を分けずに、両者が子供の頃から一緒にスポーツを楽しめる機会を創出することも大切。 健常者と障害者が対等に一緒にスポーツができる・一堂に会する場も設定いただきたい。	○ 東京都障害者スポーツ大会やTEAM BEYONDの取組において、障害のある人となない人が一緒に参加し、スポーツを楽しめる機会を、引き続き提供していく。 ○ 今後も、子供も含めて、障害の有無にかかわらず、あらゆる人がスポーツに親しみ、身近なものに感じてもらえるよう、取組を推進していく。
16	ユニバーサルコミュニケーション技術の社会への浸透は、社会全体にとって有益であり、是非推進してほしい。また、区が主催するイベント等での機器の展示等で支援をいただけると有り難い。	○ 東京2025世界陸上・東京2025デフリンピックの開催を契機とし、国籍や障害にかかわらず、誰もが円滑にコミュニケーションできるようユニバーサルコミュニケーション技術の普及を促進していく。 ○ 区市町村への支援については、都によるイベント等への機器の展示や体験の出展等のほか、区市町村が独自に実施する気運醸成の取組に対する補助事業等により、引き続き連携して大会の開催気運を高めていく。
地域・経済の活性化について		
17	経済の活性化という視点で、スポーツのビジネス化のような視点や指標があっても良いのではないか。	○ 政策の柱3「スポーツでにぎわう」において、地域・経済活性化の視点で施策を推進していく。
スポーツ大会の開催について		
18	ねんりんピックについて、大学・企業等による最新技術や研究成果の発信や体験機会の提供などの、東京ならではの取組を行い、日本全国に普及促進することで魅力的な大会になるのではないか。	○ 令和10年度ねんりんピック東京大会の開催に当たっては、大学や企業等様々な団体と連携し、魅力的で意義深い大会となるよう取り組んでいく。
19	世界陸上、デフリンピックの子供や地域住民の観戦機会を確保するため、学校観戦における移動手段の支援や観戦情報の提供をしていただきたい。	○ 世界陸上については、子供たちに大会期間を通じてできるだけ多くの種目を見てもらえるよう、観戦機会を提供していく。大会が土日祝日を中心に実施されることを踏まえ、保護者との観戦や、子供たち同士での観戦など、多くの子供たちが観戦できるよう制度を検討していく。 ○ デフリンピックについては、学校からの希望制で、平日日中に行われる競技を観戦・応援していただく機会を提供する予定。教育関係者と連携し、観戦する競技や移動の方法などを調整していく。
東京2020大会のレガシーについて		
20	東京2020大会のマスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」を休眠資産とせず、今後も継続して活用してほしい。	○ 東京2020大会マスコットについては、大会時に制作したマスコット像をレガシーとして、都民に触れ合えるよう、都立スポーツ施設等で引き続き展示していく。また、イベントへの出演等効果的な活用を検討していく。
21	東京2020大会のマスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」は大会の立派なレガシーであるため、定期的に活躍する機会を設けてほしい。	
22	今後もマスコットの活躍の場を設けるなど、大会のすばらしいレガシーが様々な形で末永く継承されてほしい。	
23	レガシー展示やミライトワ・ソメイティが登場する企画などがあると良い。	
24	「ミライトワ」と「ソメイティ」は、まさに東京2020大会のレガシー。ふたりが登場する度に、イベントも盛り上がり、特にパラスポーツにも関心が深くなるので、可能な限り存続してほしいと考えており、子供たちにも触れ合う機会を増やしてほしい。	
25	東京2020大会の開催経験やレガシー、「TOKYOスポーツレガシービジョン」などがどのように継承・発展されていくのかが分かるような見せ方のほうが、本計画の位置付けが明確になってよいのではないか。	○ レガシービジョンの内容については、本計画において継承し、関連性を示していく予定である。また、レガシービジョンに記載のある各取組についても、引き続き推進していく。
26	「GRAND CYCLE TOKYO」は、オリパラのレガシーをきっかけに、スポーツの意義であるウェルビーイングの向上につなげていくイベントであり、臨海部のイベントについてもレガシーの一つではないか。また、本イベントの長期的な継続開催をお願いしたい。	○ 臨海部について、東京2020大会で様々な競技が開催されたことを踏まえ、そのレガシーを継承し、本事業を実施している旨、本文に記載した。 ○ 環境にやさしく、健康にもよい自転車をもっと身近なものとするため、「GRAND CYCLE TOKYO」事業として、自転車に関する様々なイベント等を総合的に進めていく。
スポーツ施設について		
27	・都立スポーツ施設において、環境に配慮した機器の導入や、ICT技術の活用を一層推進していくべきと思う。	○ 都立スポーツ施設において、設備の高効率化や太陽光発電等の再生可能エネルギー設備、電気自動車等のための充電設備の導入などの取組を推進していく。
28	区市町村のスポーツ施設についても、ユニバーサルデザイン化を進めていく必要があるが、施設の老朽化が著しく、維持更新が財政的に厳しいこともあるため、幅広く施設修繕への助成制度があると有り難い。	○ 都は、区市町村のスポーツ環境の拡充に向け、ユニバーサルデザイン化の推進、暑さ対策、学校施設の市民開放などの施設の改修整備に係る取組を支援している。
スポーツを支える担い手について		
29	担い手の確保・育成や地域におけるスポーツ活動への支援、団体基盤の強化等を図るために、放課後は全ての活動をクラブ活動とし、教科指導と分けて考えるのがよいのではないか。	○ 部活動の地域連携・地域移行については、国の方針や令和5年3月に策定した、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を踏まえ、まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進することとしている。 ○ なお、部活動の地域連携・地域移行を含む地域のスポーツ振興については、国の方針や、都の「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」等を踏まえ、今後設置する「地域のスポーツ振興に向けた関係者会議」において検討していく。
30	部活動について、学校の先生だけに頼るのではなく、有償の指導者を見付けるなりシニアボランティアが必要ではないか。	○ 現在、部活動指導員や外部指導者など地域の方々に部活動の指導に携わってもらっている。 ○ 部活動の地域連携・地域移行をはじめとする地域のスポーツ環境の整備や活性化につなげる取組の一つとして、指導者の確保や質の向上を図れるよう「指導者資格等取得支援事業」を開始する。

意 見 等 （要 旨）		考 え 方
31	教員の負担軽減や部活動の質向上について、数量的な指標を設け、達成目標や目標達成率などを明示すると、更に理解しやすくなるのではないか。	○ 東京都が令和５年３月に策定した、「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」には、教員が指導に携わらない休日の部活動の増加や教員の部活動への従事時間の削減等の成果指標を示している。 ○ 本計画においては、部活動を含めた地域のスポーツを支える新たな担い手の確保に向けて、「スポーツ指導者数」を達成指標としている。
32	概要版にも、部活動の地域連携・移行に関する観点も入っていることを明確に示すべき。	○ 地域におけるスポーツの観点から、政策強化に向けた施策として、新たな担い手の確保により、持続可能な地域のスポーツ振興を推進していく。
33	スポーツ推進委員の活動を広く紹介していただき有難い。加えて、世界陸上・アジア大会等国际大会にスポーツ推進委員を招待するなどエンゲージメントの機会提供等も御検討いただきたく思う。	○ 今後とも引き続き、スポーツ推進委員の活動を広く周知していく。 なお、都は、競技等の体験教室や各種スポーツ大会・イベントなど、「するスポーツ」の実施に併せて、必要に応じて、スポーツ推進委員等に対して、支える人材として活動していただく機会を提供している。

2. その他

意 見 等 （要 旨）	
34	ラグビーワールドカップや東京2020オリンピック・パラリンピックといった大規模な国際大会の開催を通じて、スポーツへの関心が高まり、インフラの整備が進んだ。大会終了後は、そのレガシーを活用し、都民のスポーツ参加を促進する施策が展開されている。特に、子どもだけでなく、障害者、聴覚障害者、高齢者、女性など、様々なセクターにスポーツ参加の機会を広げている点は、非常に戦略的である。さらに、デフリンピックやねりんピックといった大会の誘致にも成功しており、東京都の取組を高く評価する。
35	リアルランニングイベントを都市で開催するに当たっては、セキュリティ面も含めた課題が増えている中で、デジタル技術を活用した取組はとても良いと思う。
36	アスリートが世界を目指せるような選択肢を増やしたり、スポーツによるにぎわいを示すことで、日本の価値を世界に発信するなど、スポーツを通じて世界とつながりを育むことが重要。
37	世界陸上、デフリンピックについて、地域の子供たちによるエスコートキッズやメダルセレモニーへの参画なども観戦者のエンゲージメントとして良い取組だと思う。
38	東京2020大会後は都内各地のレガシー関連展示のある場所を訪ねたり、メモリアルイベントや「BEYOND STADIUM」「チャレスポ!東京」等のスポーツイベント、「パラスポーツ月間」や「TEAM BEYOND」の催しなどに参加することを楽しみに生活しており、体力向上にも役立っている。
39	東京2020大会は日本国内のパラスポーツへの意識を変えるきっかけになった。今後は、それを更に維持・拡大していくフェーズである。国スポ・全障スポやオリパラの統合開催の可能性を探る先駆けとなるような施策を、多数のオリパラレガシーを保有する東京に期待したい。
40	障害のある子どもたちがスポーツをする際、移動面も含めサポートする人材が必要。東京2020大会、世界陸上、デフリンピックの各ボランティア関係者への情報提供、各種研修等が力を発揮すると期待をしている。
41	「船の科学館」の跡地を臨海部のスポーツ拠点にする件について、コンセプトなどの調整が必要。
42	「船の科学館」について、解体した跡地をスポーツ拠点にされることになっているが、施設のコンセプトなどについて、所管局同士が密に連携された方がよい。
43	当団体の取組について計画案に記載されており、策定後は計画に沿って取組を着実に推進したい。